

地域のヘルスケア学ぶ

釧路新産業創造研究会



【釧路発】サンエス電気通信(株)(釧路市)の宮田昌利社長が会長を務める釧路新産業創造研究会は24日、釧路市生涯学習センターまなぼつとで第21回研究会を

開催した「写真Ⅱ」。宮田会長をはじめ会員ら約40人が参加。北海道情報大学健康情報科学研究センターの本間直幸センター長らを講師に招き、釧路における地域

ヘルスケアの可能性について学んだ。

研究会では、本間センター長が「食の臨床試験を通じた地域ヘルスケアへの貢献」健康情報科学を基盤とした取り組みを中心に」と題し、センターについて紹介したあと、江別市で実施している食の臨床試験システムや産学官連携の取組などを説明。今後の構想として、江別産の食材や高付加価値化された食品についてデジタルパイプスを活用して情報発信し、江別市を健康都市とするプロジェクトを紹介した上で「さらに健康の基盤を固めてい

き、地域に貢献したい」と話した。

また、ポストノストラティックスの小野光則代表が「釧路から始まる、健康基盤づくりプロジェクト」と題して講話。生活習慣の見直しを地域社会の中で実践する釧路モデルの生活支援プログラムについて、期間や内容などの概要、今後の展開等を説明し「健康寿命を延ばすことによって働く気力を持つ市民が増え、有業率が高まれば、釧路で新産業を考える一つの礎になる」と健康寿命延伸の重要性を強調した。

このほか、社会医療法人 孝仁会の齋藤孝次理事長が釧路孝仁会記念病院で行う先端医療について紹介。生活習慣病とその治療方法について情報を共有した。

統括では、宮田会長がこれまで研究会で行ってきた活動を振り返った上で、2026年の研究会の方向として健康ビジネスやユースレナ実証実験、ナマコ養殖など五つのプロジェクトを進めるとして「釧路にあるインフラを活用しながら、具体的なビジネスや産業になるよう取り組む」と話し、一層の研究推進を呼びかけた。

サンエス企業グループ代表 宮田昌利が会長を務める「釧路新産業創造研究会」の関係記事です